令和 4 年 1 月 11 日

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学統計・解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（1 月 3 日-9 日）の新規陽性者数は、7,308 人（先々週 383 人）でした（図１）。極めて急速な拡大であるため、従来の方法を用いて実行再生産数を疫学的に意味のある形で推計することは困難です。

年代別推移

年代別では、20 代が 3,624 人（50%）と最多であり、30 代 896 人（12%）、10 代 859 人（12%）と続きます（図２）。活動性の高い 20 代に突出して陽性者が多く、40 歳未満が 78%を占めています。70 歳以上の高齢者は 3%に過ぎません。流行の立ち上がりは、アクティブな若者たちから始まりますが、これまでになく若者に陽性者が集中しています。

保健所管区別・市町村別推移

保健所管轄区域別（7 日間合計）では、北部 787 人（先々週 50 人）、中部 2,069 人（先々週 180 人）、那覇市 1,618 人（先々週 49 人）、南部 1,996 人（先々週 70 人）、宮古 547 人（先々週 27 人）、八重山 146 人（先々週 2 人）でした（図３）。

人口 1 万人以上の市町村別（人口 10 万人あたり 7 日間合計）では、多い順に宮古島市 1,096、名護市 965、金武町 957 でした（図４）。

一部の離島を除いて全県的に大規模な流行へとしています。いずれの地域も 20 代に集中しており、高齢者が少ないことで共通しています。

渡航者関連

保健所の疫学調査によると、渡航後に陽性を確認した方は 129 人（1.6%）（先々週 6 人）でした。内訳は、県外からの渡航者 126 人（先々週 5 人）、県外へ渡航した県民 3 人（先々週 1 人）でした。都道府県別では、東京都 34 人と最多で、次いで福岡県 14 人、神奈川県 11 人、千葉県 11 人と続きます。渡航元は 25 都道府県に及んでおり、全国的な流行が始まっていることが推察されます。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（1 月 2 日時点）で 107 人と 1 週間前の 56 人から倍増しています。酸素投与など中等症患者についても 46 人と 1 週間前の 28 人より大きく増加しています。ただし、気管挿管など重症患者は発生していません（図５，６）。

第６波における重症度

今月以降、宮古・八重山医療圏で診断された新規陽性者 714 人について重症度を確認したところ、1 月 10 日時点までに中等症Ⅰ（息切れ、肺炎所見あり）17 人、中等症Ⅱ（酸素投与、呼吸不全あり）7 人のほかは無症候または軽症でした。人工呼吸管理を要する重症者は出ていません。

年齢階級別では、40 歳未満では酸素投与を要する症例はなく、80 歳未満の 97.9%が無症候または軽症でした。一方、80 歳以上では 13 人と限られた範囲ではありますが、30.8%が酸素投与を要する状態となっています（図７）。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、全県的に急速に感染が拡がっており、新型コロナウイルス発生後の 2 年間において最大規模の流行となっています。

これまでになく若者層に陽性者が集中していますが、その背景には、沖縄県が検査を無料化したこともあると考えられます。若者層が検査を受けやすくなったため、過去の流行と比すれば若者の感染者の捕捉率が上がっている可能性があります。

感染拡大の勢いが極めて強いため、既定の確保病床があっても、そこにはコロナ以外の患者の診療が行われているため、すぐに空けることは難しく、病床を準備するのが間に合わなくなりつつあります。

また、1 月 10 日時点で、コロナ患者の入院治療をしている医療機関だけで、9 人の医師と 83 人の看護師が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者も含めると、医師と看護師だけで 318 人、その他の事務職員などを含めると、483 人が働くことができなくなっています（図 8）。

ただし、沖縄県では、医療供給体制を維持するために、無症状の濃厚接触者については、毎日業務前に PCR 検査または抗原定性検査にて陰性を確認することで就労を認める方針としています。このため、1 月 9 日以降の休職数は減少に転じています。

沖縄県における流行の主体はオミクロン株となっており、かつてない速度で感染拡大していることから、その感染力は極めて強いと考えられます。ただし、濃厚接触者の追跡によると、同居者や会食の場では感染が拡がりやすいものの、同じ部屋に滞在するだけで感染していることは少なく、従来のマスク着用や手指衛生は有効だと言えます。

オミクロン株感染の病原性と症状については、県内の医療機関からの報告によれば、若者にとってはインフルエンザに近いと考えられます。一方、ハイリスク者、とくに高齢者については、沖縄県でも症例が少なく、まだ判断できません。県立宮古病院と県立八重山病院の限定的な臨床報告によれば、中等症以上となった 80 歳以上 9 人のうち、8 人はワクチンを 2 回接種しており、1 人は 1 回接種していました。また、60-79 歳では中等症以上が 6.7％でした。今後、高齢者へと感染拡大が進んだ場合には、医療ひっ迫となる可能性があります。

感染リスクの低い若者層の活動を維持させながら、いかに高齢者を守っていくかという難しい調整が求められます。

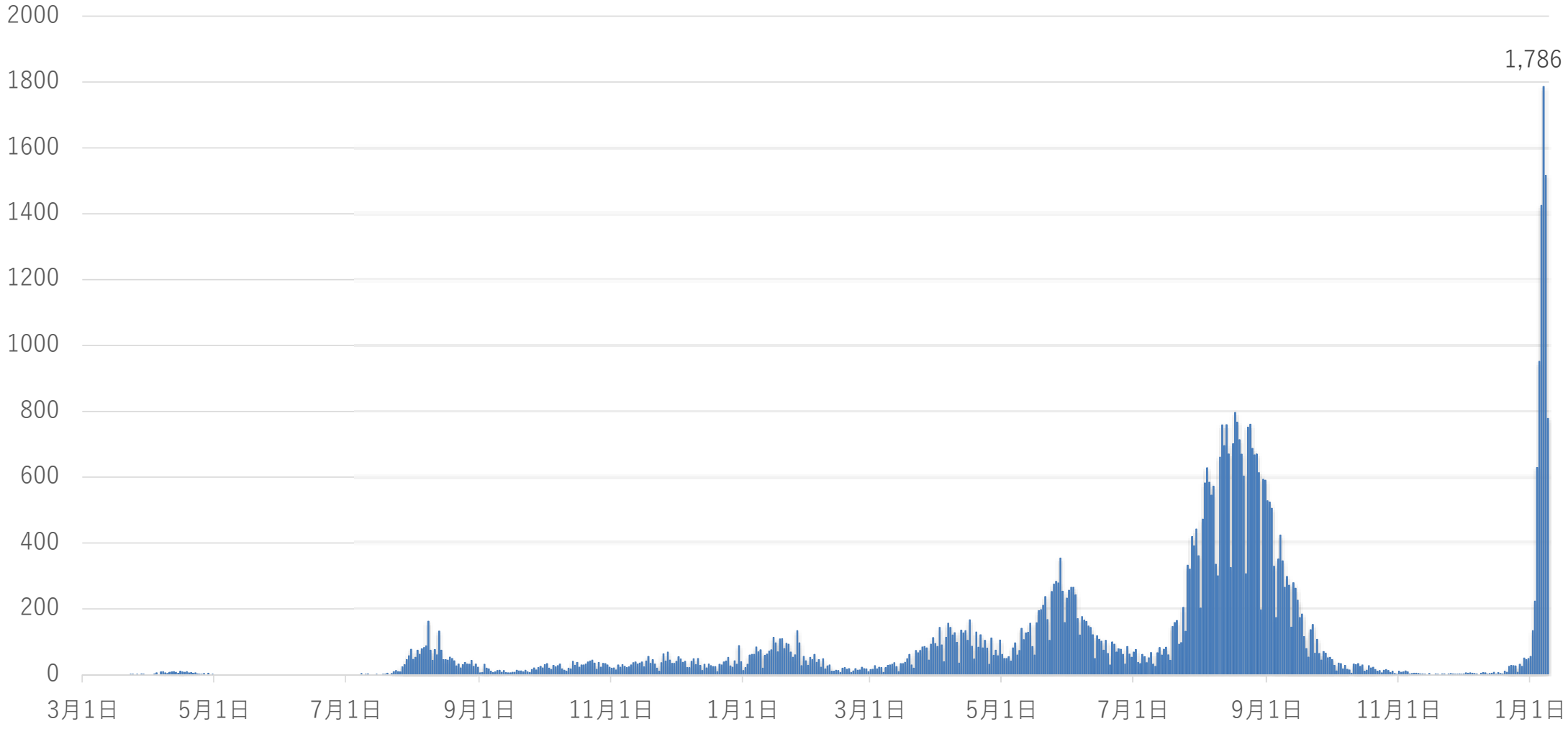
県内で開催するイベントでは、主催者と参加者それぞれに感染予防について確認していただければと思います。とくに多人数での宴会は控えていただくか、参加者全員が直前に抗原検査キットで陰性を確認してください。検査陰性であっても症状のある方が参加しないようにしましょう。

オミクロン株であっても、基本的な感染対策が有効です。すなわち、人が集まる場所では、マスクを着用してください。公共のモノに触れたときは、こまめにアルコールなどで手を消毒してください。一緒に食事をするのは、同居する家族やパートナーなど親しい人に留めてください。そして、発熱などの症状を認めるとき、仕事や学校を休み、外出を自粛することは極めて重要です。

今後も増加傾向が続くものと推定し、今週の新規陽性者数は 15,000 人以上と見込みます。ただし、県内の検査体制は 1 日に 2 万 6 千件を上限としており、陽性率 10%であったとしても、1 日に 2,600 人、週に 2 万人弱の診断が限界となります。今後の検査体制を維持するためにも、体調が軽い方には市販の抗原定性検査キットを活用いただくようお願いします。

一方、入院患者数については、デルタ株までの入院率に基づけば 1,000 人を超えると見込みますが、オミクロン株では病原性が低下していることから、その推定は困難です（図 9）。

図１ 陽性者数の推移（確定日・沖縄県）



沖縄県疫学統計・解析委員会

図２ 性年齢階級別にみる陽性者数（1月3日～9日）

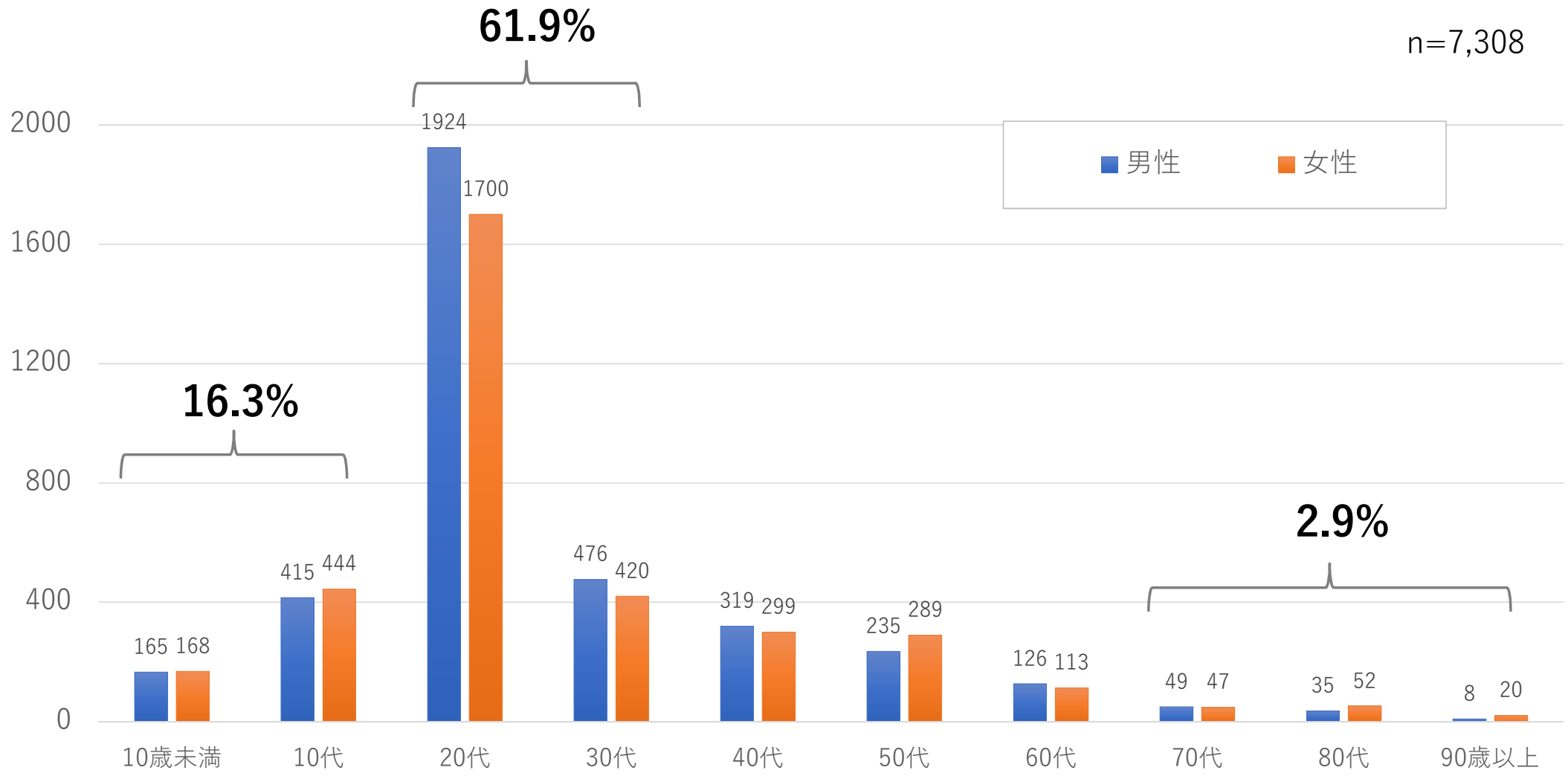


図３ 保健所管区別にみる新規陽性者数の推移

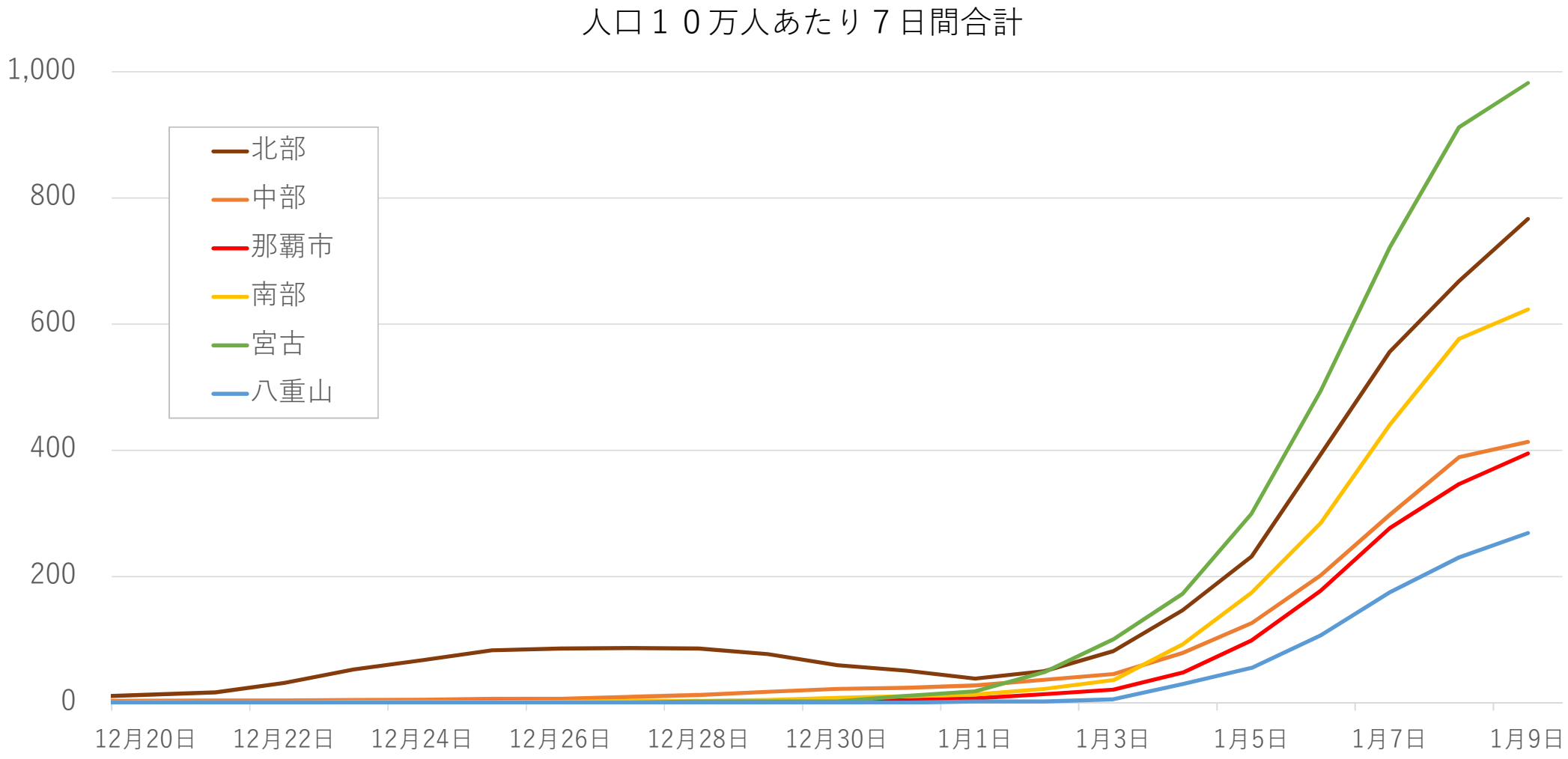


図４ 沖縄県・市町村別ヒートマップ（1月3日～9日）

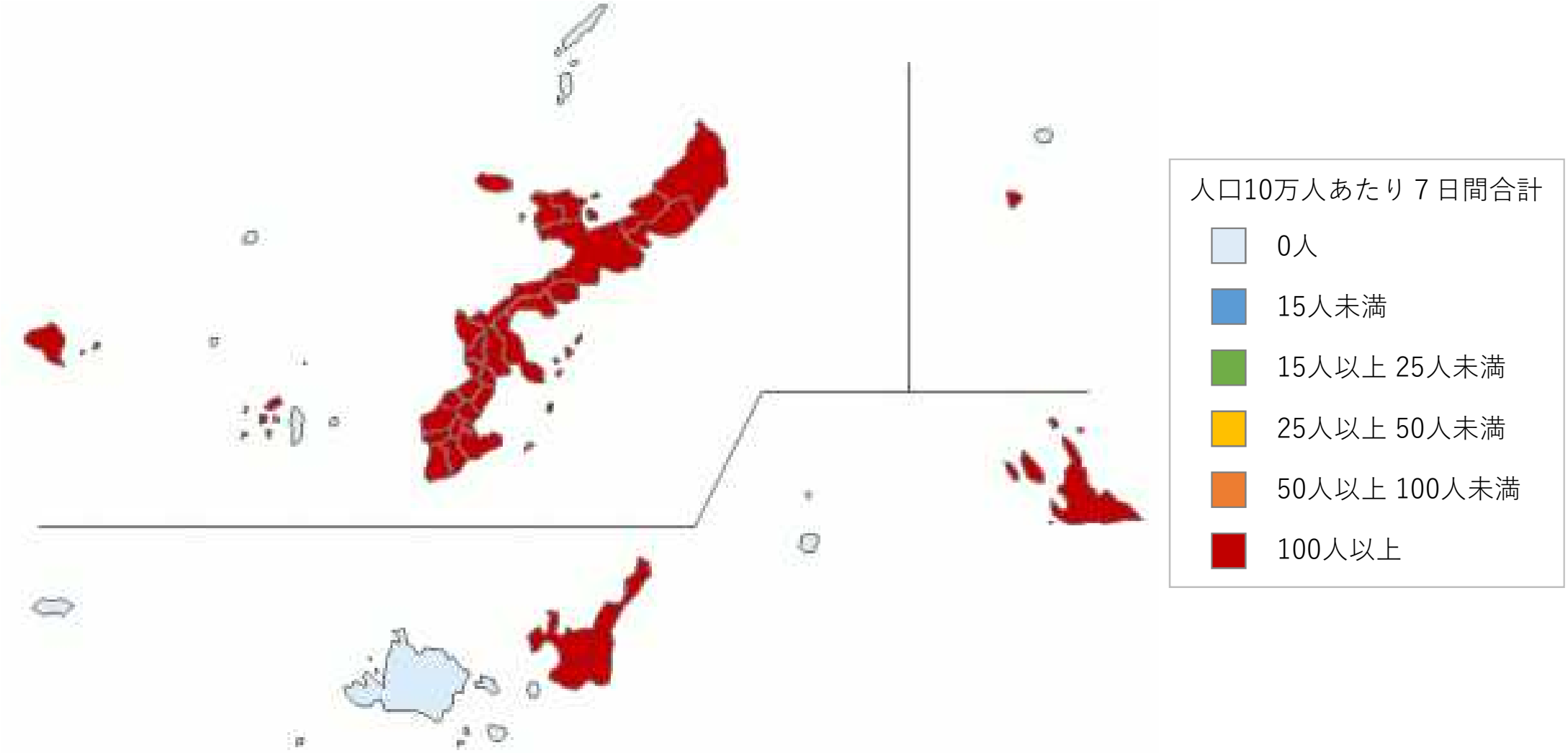


図５ 新規陽性者数および重症度別入院患者数

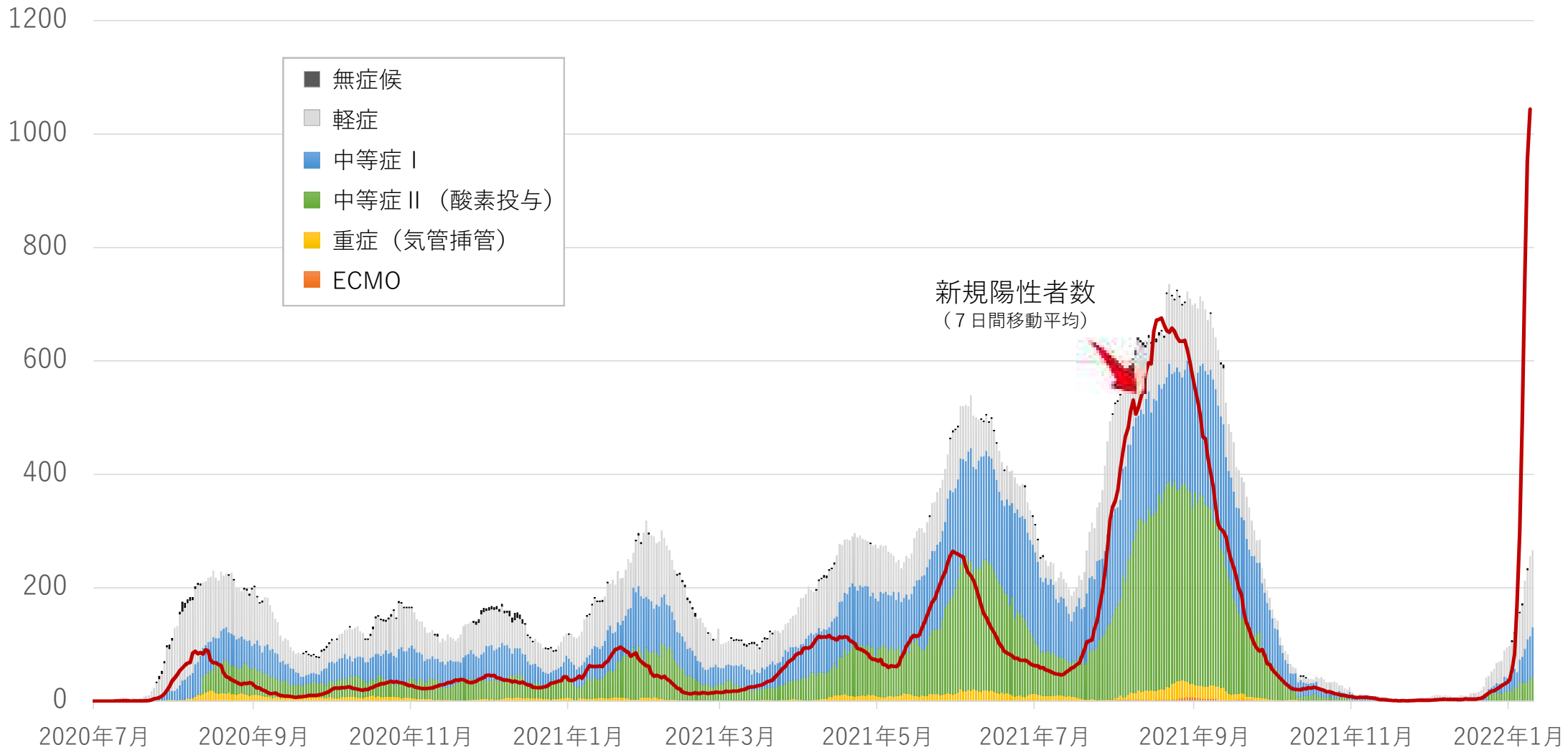


図６ 新規陽性者数および重症度別入院患者数

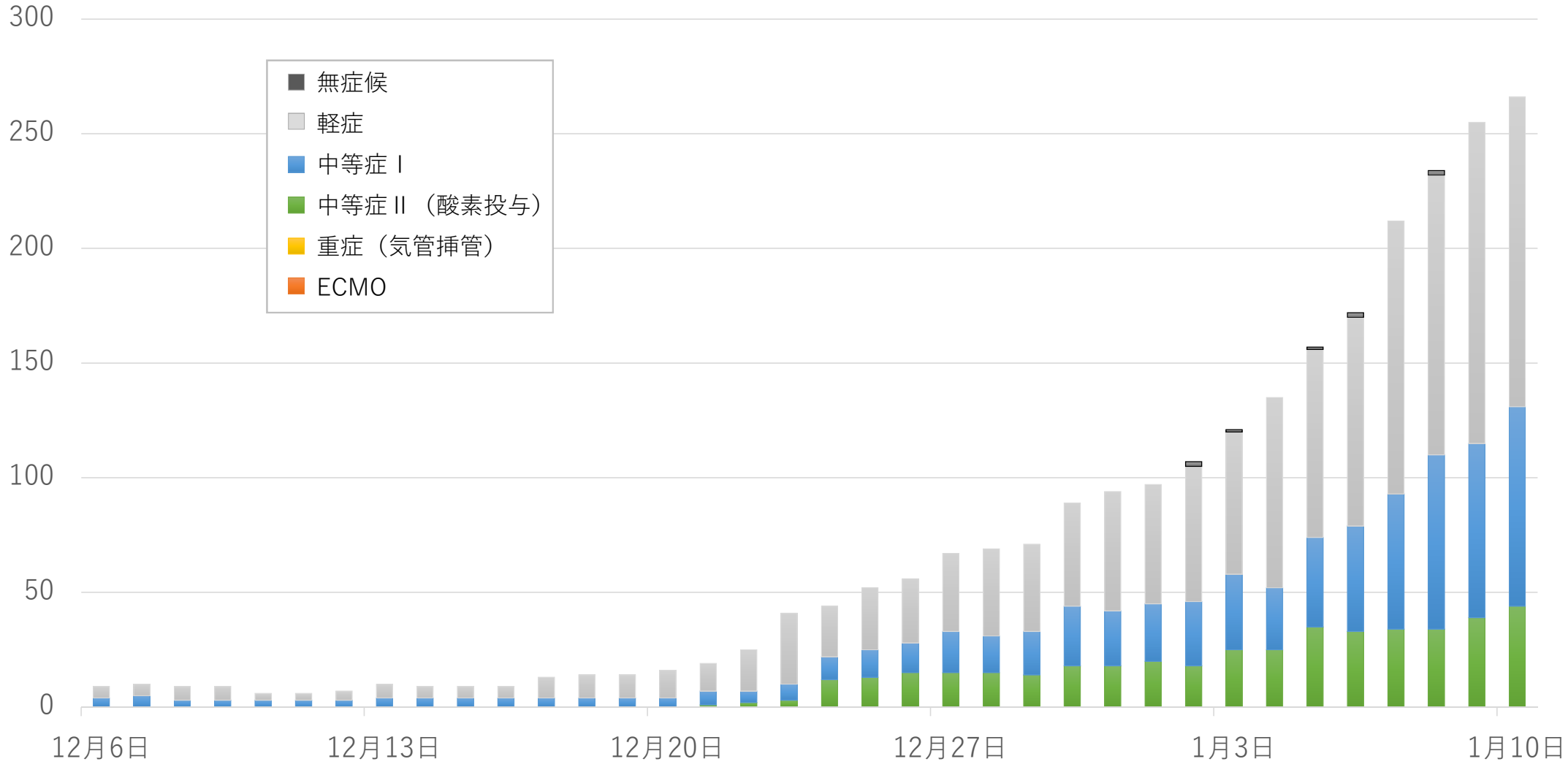
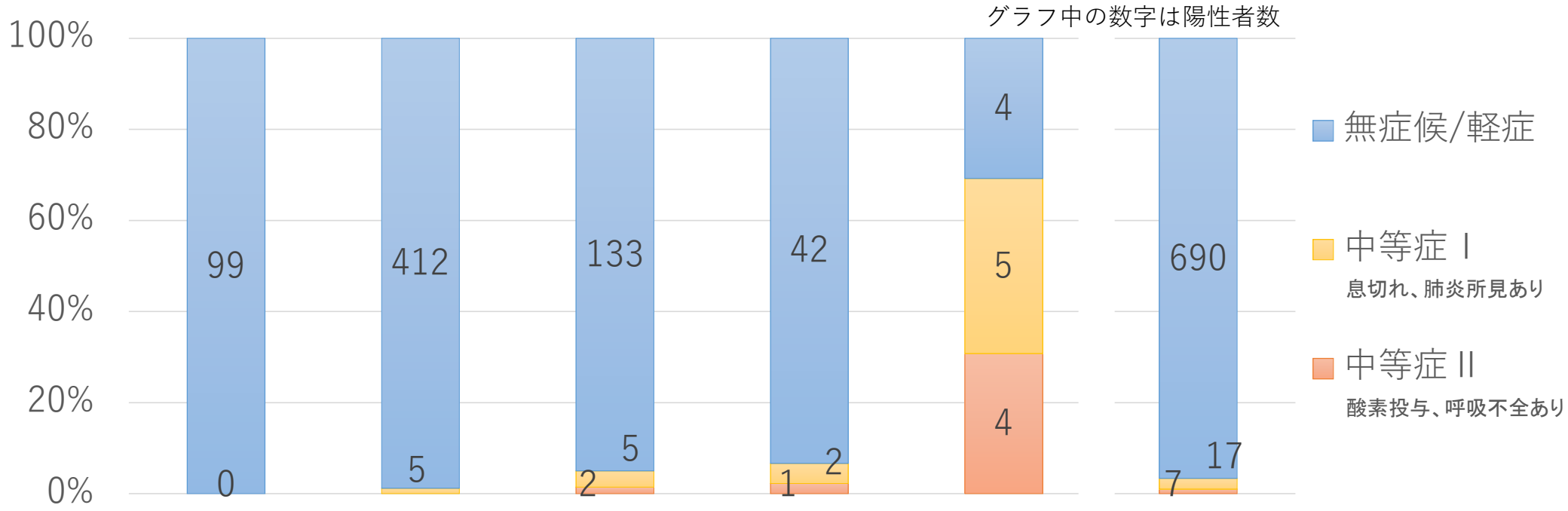


図７ 新規陽性者における重症度（宮古・八重山医療圏 / 2023年1月）



	0-19歳	20-39歳	40-59歳	60-79歳	80歳以上	全年齢
無症候・軽症	100.0%	98.8%	95.0%	93.3%	30.8%	96.6%
中等症 I	0.0%	1.2%	3.6%	4.4%	38.5%	2.4%
中等症 II	0.0%	0.0%	1.4%	2.2%	30.8%	1.0%
重症	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

発症早期には、ほとんどが軽症であるため、今後、中等症、重症が増加する可能性がある。

図８ 重点医療機関における医師、看護師の休職数

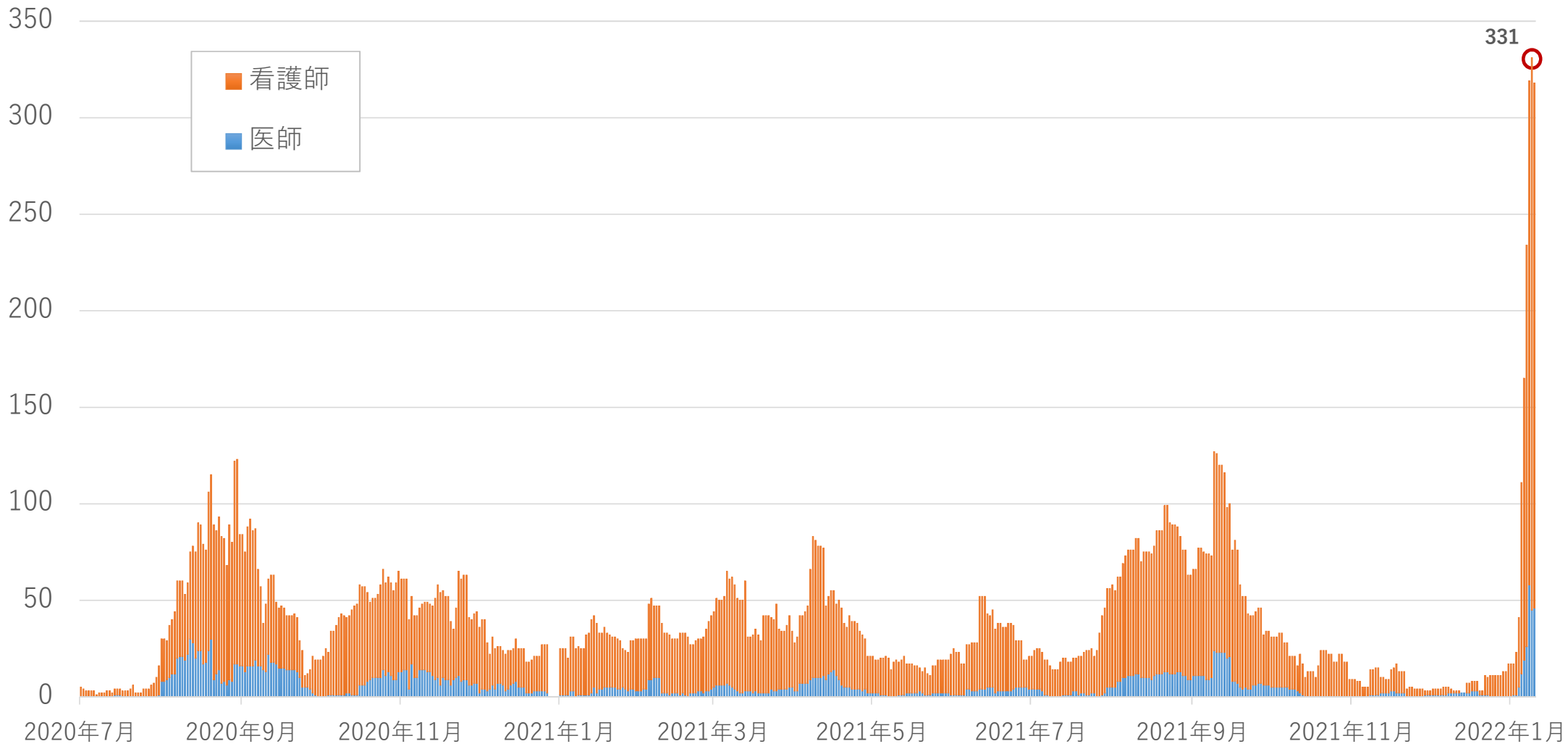


図９ 今後１週間（1月10日-16日）の発生見込み数

分析データ：　新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率；　沖縄県
年齢群別重症化率；　厚生労働省
平均期間（入院・重症）；　HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）				入院患者数※				重症患者数※			
実効再生産数	1.0	1.5	2.0	2.5	1.0	1.5	2.0	2.5	1.0	1.5	2.0	2.5
北部	685	1,379	2,778	5,594	92	121	169	252	3	4	6	10
中部	1,946	3,919	7,891	15,891	193	273	407	635	8	12	19	30
那覇市	1,418	2,856	5,750	11,580	147	204	300	463	5	8	12	19
南部	1,840	3,705	7,462	15,026	176	254	384	605	7	11	17	27
宮古	507	1,021	2,056	4,140	61	85	124	192	3	4	6	10
八重山	126	254	511	1,029	21	27	38	56	1	1	2	2
合計	**6,522**	**13,134**	**26,448**	**53,260**	**691**	**965**	**1,423**	**2,202**	**27**	**40**	**62**	**99**

※　1月16日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会